

札幌トレセン大会報告書

2018. 11. 16

札幌4種技術委員会（川内 悠平）

1、大会名・日程

2018 日韓交流 U-12 サッカー大会（2018年8月25・26日；札幌サッカーアミューズメントパーク）

2、参加選手（ ）内は所属チーム

中西 莉久(サッポロボーイズ)田中 瑞己(札幌ジュニア)米田 来禅(元町FC)大坂 恵也(石狩FC)
鷹島 凌・阿部 翔成(クラブフィールズ)佐野 元紀・田中 基也(SSS札幌)中村 友哉(スポルティング)
長谷川 幸輝・川端 恭平(L-WAVE)清水 彪雅・斉藤 匡汰(大谷地)小澤 秀太郎・山田 遥斗(AGGRE)
熊谷 太陽(DENOVA)斉藤 大翔(福井野) 計16名

3、引率者名 川内 悠平(サッポロボーイズ)、嶋田 雄二(SSS札幌)

4、大会結果

8月25日(土) 予選ラウンド 2位

① vs 道央 O3-1 (小澤・山田・田中基) ② vs 道北 O7-0 (山田2・清水・小澤・田中瑞2・佐野)
③ vs 北海道代表 ●O-1

8月26日(日) 上位トーナメント 第4位

準決勝 vs 韓国ソウル特別市選抜 U-12 ●2-3 (米田・OG)
3位決定戦 vs 北海道選抜 ●1-4 (清水)

5、成果と課題

- ・様々なスタイルの相手と対戦し、その特徴を把握しながら対応し、試合ができたこと。
→システムやボールの運び方、守備の仕方は、対戦したチームそれぞれに特徴があったが、それぞれに有効な攻め方・守り方を選びながら、トライすることができた。その経験値を5試合通して積むことができた。
- ・自分たちよりもフィジカル能力の高い選手たちにも臆することなく、强度高く試合をすることができた。
→特に韓国ソウル特別市選抜は身長が高くフィジカルの強い選手、小さいがテクニックのある選手がどんどん仕掛けてくるスタイルであったが、簡単に負けることなく渡り合うことができた。一度で奪い取ることができなくても、相手の体勢を崩しながら連続する、複数人で協力する、粘り強く闘うことができた。
- ・複数の選手が関わりながら、ゴールを目指せるようになった。
→初めは誰かが単独での攻撃が目立っていたが、試合を重ねるにつれて、コンビネーションがうまれ、効果的な崩しができるようになった。

二日間を通し、非常に良い経験をさせていただきました。関係者のみなさんありがとうございました。

